

2019年度 地域連携活動報告書

連携先名称：北海道網走市

協定締結日：2007/4/1

活動状況：継続中

連携先窓口：北海道 網走市 企画総務部企画調整課企画係

活動資金：補助金

担当教員（所属）：菅原優（自然資源経営学科）

活動体制（単位）：大学

関連教員（所属）：笹木潤・小川繁幸・大塚寛（生物産業学部）

活動目的：

連携協定を締結している網走市とは、各種の取り組みを行っているが、2019年度については、以下の3事業について実施した。

① 人材育成プログラムの実施（オホーツク実学センター）

オホーツクの地場産品を活用した新メニュー開発、新商品開発、新事業創出により地域活性化を担う人材の育成プログラム「オホーツクアグリ・フードプロデューサー創成プログラム」（社会人・学生）を実施する。このプログラムを通じて、農水産資源が豊富に存在するオホーツクの地域資源や観光資源を最大限活用し、地場産品を利用した食品開発や関連する知識の習得から技術力・創造力を養い、販売戦略と観光ツーリズムを含めた事業化・商品化構想力に優れた6次産業化事業を展開する人材を育成する。

② 網走市「生涯活躍のまち」網走版 CCRC 構想（自然資源経営学科）

網走版 CCRC 構想の策定にあたって、網走市に移住・定住する際の健康リスクとして想定される北海道の食生活・地域特性による食塩摂取過多による高血圧疾患や“door to door”による運動不足が移住・定住希望者へ与える影響を明らかにする。また、高齢者のみならずセカンドキャリア向けの移住・定住の促進を行うためのリカレント教育の強化に関連して、首都圏でのオープンカレッジとモニターツアーを行う。

③ 地域連携インターンシップ事業（キャリア課）

東京農業大学の首都圏キャンパス（世田谷・厚木）に在籍する学生をインターンシップとして網走市および大空町に招くことによって、学生の就労体験の機会を設けるとともに、地元事業者の将来の人材確保に繋がる仕組みを構

築することを目的としている。

活動内容・成果：

① 人材育成プログラムの実施（オホーツク実学センター）

別紙①のように、本学で実施する「特別講義（二）「フードマイスター」」と併用したプログラムとして、6月22日以降から実施し、3名の受講生により講座を実施した。ただし、2020年2月29日以降のプログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮して対面式の講座は実施せず、配付資料をもとにレポート提出によって評価をした。成果報告会は報告用パワーポイントの提出により内容を審査し、3名に対して修了証を発行した。3名の報告テーマは以下のとおり。

- ・伊藤慶子「北海道水産物を使った離乳食の企画開発」
- ・古川佑太「エゾシカを使用したジビエラーメンのご当地商品開発」
- ・渡辺忍「シジミエキスを用いた既存商品の新たな販売戦略」

本事業により地域資源を活用し優れたビジネスプランを有する修了生（第10期）を3名輩出することができた。修了生は2011年度の第1期修了生から数えると述べ128名に達しており、終了後は更なるビジネスプランの実現に向けた取り組みと、「NPO創成塾」への入会により、修了生間のネットワーク形成がより充実して、大学との連携も期待できる。

② 網走市「生涯活躍のまち」網走版 CCRC 構想（自然資源経営学科）

・首都圏でのオープンカレッジ（2019年12月20日（金）於：東京農業大学食と農の博物館）

オホーツクの地域食材のプレゼンテーションとディナー形式により実施し、33名の参加者により実施した。参加者からは「イベントで使用した食材を購入できないか」、「食材を提供してくれた生産者と会って話がしたい」などオホーツクの地域資源の首都圏での認知度の拡大やビジネスマッチングの萌芽が見られ、首都圏においてオープンカレッジを実施することは“大学の学び”の魅力紹介および副次的効果として網走市への経済的な波及効果も期待されることが明らかとなった。

・網走市でのモニターツアー（2020年2月28日（金）於：コネクトリップ）

“大学の学び”の魅力を実感してもらうべく、エゾシカをテーマにした体験型講座を実施した。参加者からは「またこのようなイベントがあれば参加し

たい]、「オホーツクの現地においてこのような学びが得られることに興味を持ち、大学院に通いたくなった」などの声があった。首都圏から“大学の学び”に関心のある方々を移住定住に結びつけるためには、オープンカレッジ等で地域の魅力とオホーツクだから体験できる“大学の学び”の魅力を認知してもらうことが関係人口の創出・拡大につながることを示唆された。

③ 地域連携インターンシップ事業（キャリア課）

- ・6月27日（木）説明会（世田谷・厚木キャンパス）
- ・7月4日（木）選考会議（3キャンパスマルチメディア会議）
- ・7月8日（月）インターンシップ参加者に対する事前講義
- ・9月1日（日）～8日（日）インターンシップ研修（農家実地研修）

参加者は16名の学生に対して、8件の受け入れ農家（網走市・大空町の畑作・酪農経営）で実地研修を行った実質的には5日間の農家実地研修を行い、農業技術のスキルアップだけでなく、農業が地域とどのように関わっているのかという点についても学べるプログラム、プレゼンテーションによる成果報告で構成され、アンケート調査からは、参加学生・受け入れ農家ともに高い満足度を得ることができた。

課題・改善点：

- ① 地域資源を用いた新商品開発・新事業創出に関連したプログラムを2010年から実施してきたが、受講生数も減少傾向にあり、新たなプログラム開発が望まれている。本事業は「食の6次産業化プロデューサー（食Pro）」としても実施をしていることから年間40コマを確保した講座の新たな企画・運営は、学内教員を中心としたマンパワーでは限りが見えてきた。今後は新たな地域ニーズの把握を行いつつ大学の地域貢献のあり方を検討する。
- ② これまでの基礎調査やモデル事業などの結果から、セカンドキャリアを模索するシニア層だけではなく幅広い年齢層が大学での学びや食に関して興味を持っているものの、寒冷地であることや交通の利便性、東京農大ならではの“大学の学び”の魅力のPR不足などから、直ちに移住・定住につなげることは困難である。結果として関係人口の創出・拡大に向けた取り組みを推進するうえで、網走市と大学のみならず、多様な組織との連携が必要となる。
- ③ 2016年に始まった本事業は、通算で4回目となった。参加学生、受け入れ農家の満足度に関しては例年と変わらず高い評価を維持できている。しかし、

一方で受け入れ農家から出される要望も例年同じような内容になっており、開催時期や作業内容、学生に作業を覚えてもらう内容・難易度等も加味したうえでの、より最適な運営が望まれる。

※なお、①と②に関しては、網走市と2020年度以降の取り組み内容や体制について学部内で協議を進め、網走市企画調整課との検討も行って2020年度以降は、地域連携の強化に向けた「地域課題戦略推進協議会」の設立（5月27日に設立総会を実施）と、実質的な実行組織として「未来を考える戦略センター」を立ち上げることによって、新たな地域ニーズの収集と課題解決に向けた事業を実施することとしている。

2019年度 オホーツクアグリ・フードプロデューサー創成プログラム(地域創成塾)スケジュール

2019年度「網走市東京農大6次産業化実践講座補助金」

食Pro. レベル	講義名	開講	日程・時間	時間	コマ
レベル1	オホーツクの地域資源・畜産と酪農	フード	4月17日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル1	オホーツクの地域資源・畑作物	フード	4月24日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル1	オホーツクの地域資源・水産物	フード	5月8日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル1	食品開発の手順	フード	5月22日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル2	食品の栄養と機能	DVD対応 フード	5月29日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル1	食品衛生と安全管理	フード	6月5日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル1	食品加工の技術と適用	フード	6月12日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル1	オホーツクの地域活性化と食品開発物語	フード	6月19日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル1	食品製造実習(乳加工実習:アイスクリーム)	フード	7月13日(土) 13:00~16:40	180	2
レベル1	食品製造実習(農産加工実習:ジャム)	フード	7月24日(水) 16:20~19:30	180	
レベル1	製品開発と品質管理	フード	7月17日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル1	オホーツクの地域資源・野菜類	フード	10月9日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル1	食品流通と地域食品のブランド化およびマーケティング	フード	10月16日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル3	地域商品のマーケティングと販売戦略特論1 (ヒット商品をつくるネーミングとパッケージ)	フード	10月23日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル3	起業および経営理念の策定特論 (開発商品と地域ビジネスの経営理念)	フード	10月30日(水) 16:20~17:50	90	1
レベル1	食品企業の経営と分析	フード	11月6日(水) 16:20~17:50	90	1
	フードマイスタープログラム 成果発表会	フード	12月14日(土) 09:30~10:30		
レベル2	6次産業化・地域再生の事例分析特論(一)	創成塾	6月22日(土) 13:00~14:30	90	1
レベル2	ビジネスプランの策定特論演習(面談)	創成塾	6月22日(土) 14:40~16:10	90	1
レベル3					
レベル2	ビジネスプランの策定特論(商品コンセプトづくり)	創成塾	8月31日(土) 13:00~16:10	120	2
レベル2	オホーツク地域の経営分析演習	創成塾	9月21日(土) 13:00~16:10	180	2
レベル2	ビジネスプランの策定特論 I	創成塾	10月26日(土) 13:00~14:30	90	1
レベル1	ビジネスプランの策定特論演習	創成塾	10月26日(土) 14:40~16:10	90	1
レベル2	ビジネスプランの策定特論 II	創成塾	1月18日(土) 13:00~16:10	90	2
レベル3	地域商品のマーケティングと販売戦略特論演習1	創成塾	1月19日(日) 10:30~12:10	90	1
レベル3	事業計画書の診断演習	創成塾	2月16日(日) 13:00~16:10	90	2
レベル3	地域ブランド戦略とパッケージ特論演習	創成塾	2月22日(土) 10:30~12:10	90	1
レベル2	組織管理と経営管理特論演習	創成塾	2月22日(土) 13:00~14:30	90	1
レベル2	食品関連法規と知財管理	創成塾	2月22日(土) 14:40~16:10	90	1
レベル3	ビジネスプランの策定特論Ⅲ(プレゼン資料に向けて)	創成塾	2月23日(日) 10:30~12:10	90	1
レベル2	6次産業化の支援とコーディネート手法	創成塾	2月29日(土) 14:00~15:30	90	1
レベル3	6次産業化の支援とコーディネート演習	創成塾	2月29日(土) 15:40~17:10	90	1
レベル2	6次産業化関連法規と支援制度	創成塾	3月1日(日) 10:30~12:10	90	1
レベル3	地域商品のマーケティングと販売戦略特論演習2	創成塾	(イベント出展に充てる)	180	2
—	成果報告会(試食会) ※@15分報告+5分質疑応答	創成塾	3月7日(土) 15:00~16:00	60	—
—	修了証授与式	創成塾	3月7日(土) 16:00~16:30		—

注: 2月29日以降のスケジュールは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮して、対面式の講座を実施せずに資料を配付してレポートを提出することによって受講の証とした。また、3月7日の成果報告会と修了証授与式は実施せず、報告用パワーポイントの提出により審査し、修了証は郵送により送付

40コマ

地域の課題解決へ連携

網走市、東農大、経済団体が協議会

【網走】市と東農大生物産業学部（網走）、市内の経済団体は27日、地域課題を解決する事業を行う「地域課題戦略推進協議会」を設立した。オホーツク管内の自治体や民間企業が東農大の研究者に調査・研究を依頼する際、仲介する業務を中心に行う産官学の組織。東農大の知見を活用し、各団体と連携してさまざまな事業に取り組む。

（尹順平）

研究者と企業など仲介

協議会は市、東農大生物産業学部、網走商工会議所、オホーツク網走農協、網走漁協、西網走漁協、網走市観光協会、網走信用金庫の8団体で構成。市役所で開かれた設立総会で、東農大生物産業学部の吉田穂積学部長を会長に選出した。

協議会は東農大オホーツクキャンパスに事務局を置き、6月1日から相談受け付けなどの窓口業務を始め

る。常勤の職員を同日付で採用し、東農大の職員1人が加わり運営。本年度の運営費400万円は市が全額負担する。

市は本年度、都市部に住みながら地方と交流する「関係人口」の拡大を目指し、首都圏で行う食のPR活動事業（事業費200万円）を協議会に委託する。自治体や民間からの東農大への調査・研究依頼の窓



市役所で開かれた「地域課題戦略推進協議会」の設立総会

口は、これまで生物産業学部に併設されていた「生物資源開発研究所」が担っていたが、東農大の組織改編で4月に世田谷キャンパス（東京）に統合された。このため市などは研究所の機能を発展的に代替できる組織の立ち上げを検討していた。

設立総会で吉田会長は「構成団体の知見を借り、持続可能な地域の発展に寄与できる『網走モデル』を示せるような取り組みをしていきたい」と語った。